

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 高槻 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	文章を読んで、重要な部分を捉えつつ、自分の考えをまとめることに課題がある。
	よくできた問題	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかをみる問題の正答率は全国平均を上回っている。
	努力が必要な問題	目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることに課題がある。
算数	全体的な傾向や特徴など	表やグラフを読み取り、必要な数値を読み取ったり、条件に合う数を選んだりすることに課題がある。
	よくできた問題	百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる問題の正答率は全国平均を上回っている。
	努力が必要な問題	問題の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうかをみることに課題がある。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」との問いに対し、肯定的に回答している児童の割合が、全国に比べて大きく上回っている。 ・「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」との問いに対し、「ほぼ毎日」と回答した児童の割合が全国に比べかなり高かった。また、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」との問いに対して、肯定的な回答をした児童の割合もかなり高かったため、今後はさらに活用する場面を増やしていく。 ・「国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめていますか」との問いに対して肯定的に回答している児童の割合が低かった。話し合い活動の充実と、他教科においても意見交流の場と機会を図っていく。 ・「算数の授業の内容はよく分かりますか」との問いに対し、肯定的な回答をした児童の割合が全国に比べて低かった。チャレンジタイムや既習学習の復習を通して、基礎的基本的な学習の定着を図り、授業改善を目指す。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<p>書く活動、話し合う活動により、自分の考えをもって、相手の意図をくみ取りながら意見交流ができることを目指す。そのために、実態を把握、分析し相手意識、目的意識をしっかりともち、教師が手立ての工夫をすることで、話の内容の理解や、児童が主体的に取り組めるようにする。表やグラフからわかること、またその数値から読み取れる傾向をつかむ学習を取り入れていく。チャレンジタイムでデジタルドリルアプリの活用を推進し、学習内容の習熟を図る。</p>

② 家庭生活習慣等に関する取組

<p>学校が作成した「家庭生活でのやくそく」を周知し、守ることができるように、タブレットを用いた家庭学習や自主学習を取り入れるなどして、児童が自発的に取り組めるようにする。</p>
--